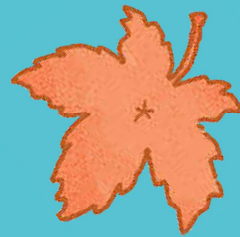


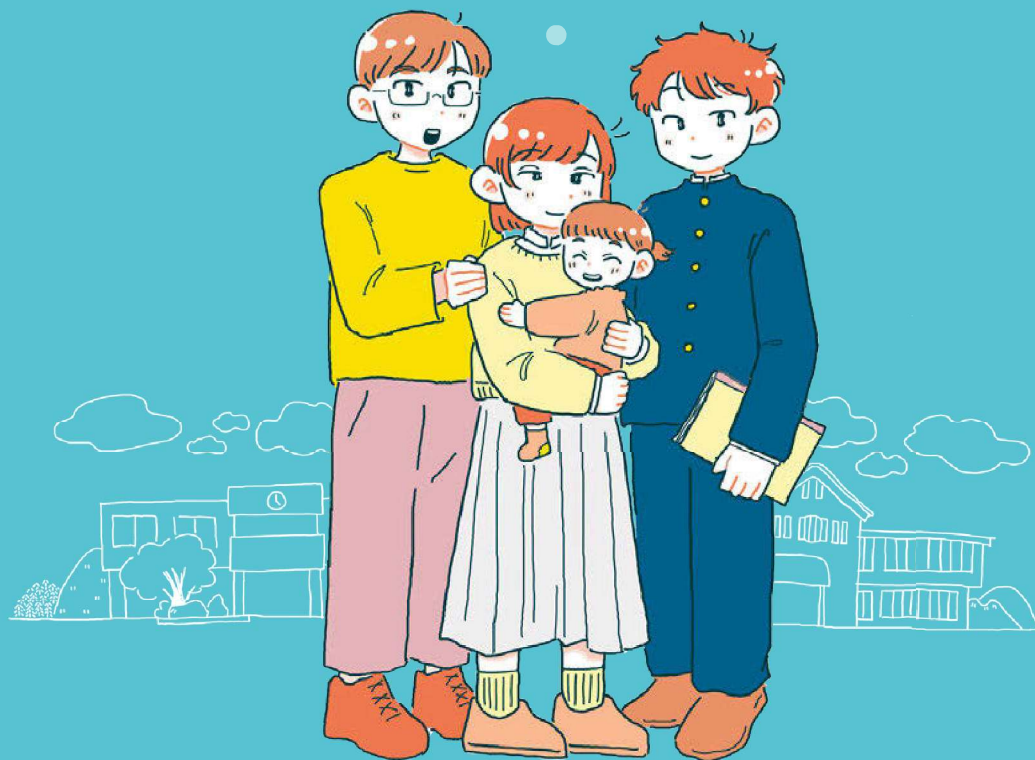
2

基本目標



《共に学び共に育つ》
自分らしく暮らせる
「山の都」のまちづくり





yamato-town

—基本方針—

- 2-1. 子育て環境の整備、充実、発信
- 2-2. 学校教育環境の向上
- 2-3. 矢部高校応援体制の充実
- 2-4. 山都町民としての誇りの醸成
- 2-5. 生涯学習の機会提供
- 2-6. 人権教育・啓発活動の充実
- 2-7. 男女共同参画の実現

2-1

yamato-town

子育て環境の整備、充実、発信



町の現状・課題

- 少子化及び過疎化が進行しており、本町の1年間の出生数は平成17年以降100人を切っています。令和6年では、出生数は37人と、年々減少しています。
- 子育てに関するあらゆる相談を一元的に受け止めるワンストップ機能を強化するとともに、児童虐待やネグレクトなどに適切に対応するため、令和6年にこども家庭センターを設置し、母子保健と児童福祉の相談支援強化を図っています。
- 本町では、令和6年にこども計画を新たに定め、家庭だけでなく地域で子どもの成長を支える町を目指しています。こども一人ひとりの成長に応じたきめ細かな支援が必要となります。
- 令和7年に小児科医療機関が2か所閉院し、今後の乳幼児健診医の確保が課題となっています。

数値目標

指標名	R 6	R 11	R 15
地域の子育て支援評価（A：良い／B：まあまあ良い）の割合	70%	70%	70%
3歳児のむし歯本数（1人あたり）	0.76本	0本	0本
小児生活習慣病予防健診受診率	47.3%	50.0%	53.0%

まちづくりの方向性と具体的な取り組み

【①子育て支援環境の整備】

- 子育て世代が安心して子どもを産み、育て、子どもたちの健やかな成長を支えていけるように、地域で子育てを支援・応援できる環境を整備します。

主要な取り組み

- ・多子世帯の保育料の負担軽減
- ・学童保育事業の充実
- ・医療費助成事業の推進

【②町内連携体制の構築】

- 子育てしやすい環境を整備するために、こども家庭センターを中心に関係機関と連携して、必要なときに相談や対応ができる専門員の確保や育成などを図ります。

主要な取り組み

- ・こども家庭センターの機能強化
- ・出産・子育て相談事業の推進
- ・保育サービス事業の推進

【③乳幼児等の医療体制の確保】

- 出生状況を踏まえて、適切な範囲で乳幼児健診の集約を図ります。また、小児科医による健診を実施するなど保健指導ができる体制を維持し、子どもたちの健やかな成長を支援します。
- 子どもを産み育てたいという夫婦の希望を叶えるため、不妊治療の助成等を実施します。

主要な取り組み

- ・母子手帳交付、予防接種事業のオンライン化の推進
- ・乳幼児健診の充実
- ・不妊治療費助成事業の推進
- ・歯科保健対策会議の実施

【④子育て支援に関する情報の発信】

- 本町の子育て環境の魅力について積極的に情報を発信し、支援の必要な人に情報が届くようにします。

主要な取り組み

- ・ホームページによる情報発信の充実
- ・SNSを活用した情報発信の拡充



みんなで取り組むこと

- 子どもたちの日々の様子を家庭や地域で見守り、不安なことは関係機関へ相談しましょう。
- 学校行事や地域行事などに参加して、子どもたちの成長を見守りましょう。

2-2

学校教育環境の向上

yamato-town



町の現状・課題

- 小中学校の児童生徒数は、平成 17 年度と比べると、50%程度減少しており、学校の規模や配置について、適切に検討していく必要があります。
- 新学習指導要領では、知識の習得だけでなく、活用力や人間性を育むことが重要視されています。情報化やグローバル化など、激しく変化する社会の中で町内の子どもたちが夢や志を持ち、生涯を通じて社会で活躍できる人材となれるような学習支援が重要です。

数値目標

指標名	R 6	R 11	R 15
自分で計画を立てて学習を行う小学5年生以上の児童生徒の割合	56.8%	65.0%	70.0%
中学3年生の英検3級受験割合	30.0%	45.0%	60.0%

まちづくりの方向性と具体的な取り組み

【①学校教育環境の整備】

- 安全な教育環境整備のため必要な修繕等を適宜行い、特に老朽化した校舎への対応として大規模な施設改修を計画的に取り組みます。
- 児童生徒数の減少に対応する教育環境の維持及び充実を目的とした義務教育学校の設置を進めます。

主要な取り組み

- ・ 学校施設、環境の維持管理
- ・ 義務教育学校²¹の整備（小中一貫校の設置・環境整備）

【②生きる力を育む学びの推進】

- 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成を図り、社会の変化に対応できる力を養います。
- あらゆる分野で活用される ICT を主体的に使いこなす能力及び情報モラルの育成に取り組みます。

主要な取り組み

- ・ 学習支援事業の充実
- ・ ICT 教育環境の充実

【③学校教育における国際理解の推進】

- 国際社会で活躍できる広い視野と豊かな感性を持った青少年を育てるため、外国語指導助手（ALT）の配置といった英語と触れ合う機会等を確保し、英語教育を充実させます。

主要な取り組み

- ・ 外国語指導助手（ALT）の配置
- ・ 英語検定受験の促進

【④みんなが通える学校生活支援の拡充】

- 子どもたちの抱える生活課題を解決するため、教育支援センターを活用し、学校と家庭と地域が協力して対応し、子どもたちのいじめや不登校を防ぐ取り組みを推進します。
- 障がいのある子どもも含め、すべての児童生徒が安心して学べるよう、特別支援教育の充実や支援員の配置などを通じて、一人ひとりに応じた学習・生活支援体制を整えます。

主要な取り組み

- ・ 教育支援センターの充実
- ・ 特別支援教育の充実

みんなで取り組むこと



- PTA活動などの学校運営に関する取り組みに積極的に参加しましょう。
- 子どもたちが安心して暮らせる居場所を地域の中でつくりましょう。

²¹ 義務教育学校：小学校から中学校までの9年間を一貫して行う学校。

2-3

yamato-town

矢部高校応援体制の充実



町の現状・課題

- 少子化による中学校卒業予定者数の減少、社会の急激な変化、教育ニーズの多様化など矢部高校を取り巻く現状は年々厳しくなっています。また、矢部高校の入学者数は伸び悩んでおり、県の「県立高校あり方検討会」では、募集定員の見直しや統廃合も視野に入れた提言がありました。
- 町外からの入学を考えている生徒が、学生寮の不足や老朽化した寮の現状を見て、入学を諦めるような事態も過去にはありました。
- 町の出生者数は年々減少しており、町外の生徒を増やしていかなければ、入学者数は増えません。町内外からの入学希望者を増やす取り組みが必要です。

数値目標

指標名	R 6	R 11	R 15
矢部高校入学者数	42人	45人	48人

まちづくりの方向性と具体的な取り組み

【①地域（産業）を支える人材育成の推進】

- 町内の小中学校や農林業従事者、地域産業従事者、地元企業等と連携した教育活動を推進していきます。

主要な取り組み

- ・ 地域の特徴を反映させた取り組みの支援

【②魅力ある学校づくりに向けた取り組みの推進】

- 地域・県下はもとより全国から生徒が学びたいと集まる学校の在り方について考え、生徒の意見も取り入れられるような体制づくりに取り組みます。
- 高校の魅力向上に努めるとともに、町内外へ矢部高校に関する情報を積極的に発信します。

主要な取り組み

- ・ 地域づくりや寮の整備に向けた、専門家や地元住民によって組織される高校魅力化コンソーシアム²²の構築
- ・ 地域みらい留学の推進
- ・ 矢部高校の魅力についての情報発信
- ・ 矢部高校同窓会との連携

【③暮らしを支える生活環境整備】

- 生徒の通学、住まい、学生寮等について支援を続けていきます。
- 地域全体で高校生を支える体制づくりを進め、町外から入学した高校生にも暮らしやすい環境の実現を目指します。

主要な取り組み

- ・ 通学や住まいに関する支援
- ・ 地域で高校生を支える体制の構築

【④学びを支える教育環境整備】

- 町内の多機関と協働してキャリア教育や探究学習を実施し、生徒の主体的な学びを支援します。
- 多様なニーズに応じた学びの場づくりの推進について、学校側と連携しながら取り組んでいきます。

主要な取り組み

- ・ 多機関と連携したキャリア教育の充実
- ・ 多様なニーズに応じた学びの場の創出



みんなで取り組むこと

- 町で唯一の矢部高校の魅力について、触れてみましょう。
- 矢部高校の取り組みについて情報を発信していきましょう。
- 矢部高校の行事（文化祭、販売会等）に参加して、交流を深めましょう。

22 コンソーシアム：共通の目的のために、複数の団体が連携して形成する共同体。

2-4

yamato-town

山都町民としての誇りの醸成



町の現状・課題

- 出生数の減少及び若者の町外流出が課題となっている現状において、本町に「住みたい」「住み続けたい」と思う子どもたちを増やしていくことが重要です。
- 子どもたちが自身の住む地域について知る機会が少なくなっているため、子どもと大人が交流し、学ぶことができる環境を整備していく必要があります。

数値目標

指標名	R 6	R 11	R 15
町長と中学生との座談会開催数	—	1回/年	1回/年
本町が好きと回答した生徒の割合	82.8%	85.0%	90.0%

まちづくりの方向性と具体的な取り組み

【①地域の魅力をみんなで学ぶための環境整備】

- 町民一人ひとりが郷土に対して誇りを持てるように、本町が持つ豊かな資源や魅力を子どもだけでなく大人も楽しむことができる環境を整備します。
- 地域の歴史や文化を理解し、次の世代に伝えるとともに、町外へ地域の魅力を発信できる人材を育成します。

主要な取り組み

- ・総合的な学習機会の充実

【②郷土に対する意見表明の機会確保】

- 小学校から学んできた地域学「山都学」の集大成として20年後の本町の理想像を考え、大人と意見を交わす体験を通じて、生徒の郷土愛を育みます。

主要な取り組み

- ・町長と中学生との座談会の実施

【③食育・地産地消の充実】

- 教育、福祉分野が連携し、保育園や学校において、食育や子どもの生活習慣病予防対策を実施します。
- 給食の食材に対する地元産食材の割合を可能な限り引き上げ、子どもの町産食材に対する意識の定着を図ります。

主要な取り組み

- ・食育学習の推進
- ・地元産食材の活用



みんなで取り組むこと



- 町のことについて積極的に学びましょう。
- 町産食材への関心を高め、大人と子どもが一緒になり食育に取り組みましょう。

2-5

生涯学習の機会提供

yamato-town



町の現状・課題

- 子どもたちの将来の糧となるように、幼少期から本を読む習慣を身に付けてもらうため、小中学校において学年に適した本の提供や学校図書司書の配置などを行い、図書教育を推進しています。
- 世代間交流が公民館支館単位で開催されていますが、参加者の固定化などが見受けられており、より多くの町民が参加できる交流の場が重要となっています。



数値目標

指標名	R 6	R 11	R 15
世代間交流事業の開催地区数	22 地区	22 地区	22 地区
町立図書館の貸し出し冊数	49,827 冊	55,000 冊	60,000 冊
移動図書「わくわく号」の利用者数	2,022 人	2,200 人	2,400 人

まちづくりの方向性と具体的な取り組み

【①生涯学習の拠点整備】

- 図書館の充実を図り、本とふれ合う機会と場を提供するとともに、研修会や講習会、映画上映会など生涯学習の拠点として有効活用を図ります。
- 図書館や公民館等と連携し、生涯学習の場の創出と情報提供を行うとともに、指導者の育成に努めます。
- 公民館の整備を行い、より町民が利用しやすい環境づくりに取り組みます。

主要な取り組み

- ・ 図書館の適切な管理
- ・ 移動図書館の運営
- ・ 地区集会所の新築や改築に対する支援

【②多様な学習機会の充実】

- デジタル技術や健康、環境、多文化共生など町民のニーズに応えながら各種講座の充実を図ります。

主要な取り組み

- ・ 環境学習の推進
- ・ 多文化理解の促進
- ・ デジタル化の推進

【③交流の機会の創出】

- 各自治振興区や地域で自主的に行われる世代間交流の取り組みを支援します。

主要な取り組み

- ・ 世代間交流の支援
- ・ 公民館活動の促進

【④地域一体となった青少年健全育成の推進】

- 青少年健全育成町民会議と連携しながら、家庭・学校・地域・行政が一体となって青少年の健全な育成のための多様な取り組みを実施します。

主要な取り組み

- ・ 青少年健全育成支援に係る取り組みの推進



みんなで取り組むこと

- 公民館講座や講演会、図書館の読書会などに積極的に参加しましょう。
- 世代間を超えて地域の歴史・文化・暮らしを伝えたり、一緒に活動したりしましょう。

2-6

yamato-town

人権教育・啓発活動の充実



町の現状・課題

- すべての町民が尊重されるまちづくりに向けて人権啓発に取り組んでおり、同和問題をはじめとする人権問題への理解は深まっています。しかし、近年では、SNS やインターネット上で、部落差別事象や誹謗中傷等が書き込まれるなど、人権に関わる問題が発生しています。
- 人権侵害を防ぎ、誰もが尊重され、安心して住み続けられる町を実現するために、関係機関と連携した啓発が重要です。

数値目標

指標名	R 6	R 11	R 15
「5.23 差別をなくす山都地区集会」の参加者数	361 人	380 人	380 人
山都町同和教育推進協議会が主催する研修への参加人数	85 人	100 人	100 人

まちづくりの方向性と具体的な取り組み

【①人権啓発活動の推進】

- 広報や関係機関の機関紙などを通じて、町民に対して広く人権尊重に関する啓発を行います。
- 人権に関するセミナーやイベント、研修等を通じて、町民に向けた学習等の機会を提供するほか、学校等を通じた人権学習の機会を充実させます。

主要な取り組み

- ・ 人権に関する情報発信の充実
- ・ 町民向け研修機会の提供
- ・ 「5.23 差別をなくす山都地区集会」の開催
- ・ 学校における人権教育の充実

【②人権侵害の防止】

- 人権侵害を未然に防ぎ被害を最小限に抑えるために、支援が必要な人への適切な支援体制の整備や相談窓口の充実を図るほか、関係機関との連携により早期発見・迅速な対応に取り組めます。

主要な取り組み

- ・ 成年後見制度の利用促進
- ・ 虐待等人権侵害に関する相談窓口の整備
- ・ 関係機関との連携による人権侵害事案の早期対応



みんなで取り組むこと



- 人権について正しい理解を得るために、セミナーやイベント等に参加しましょう。
- 県や町の相談機関を知っておきましょう。

2-7

yamato-town

男女共同参画の実現



町の現状・課題

- 本町では、山都町男女共同参画計画に基づき、様々な事業に取り組んでいますが、町の各種審議会や協議会において女性委員の比率が低いなど、依然として女性の意思決定過程への参画が進んでいない状況です。
- 固定的性別役割分担意識²³が年齢の比較的高い層で依然として根付いており、それらが男女共同参画の進展を妨げる要因となっています。
- ワーク・ライフ・バランス実現のため、男性の育児休業取得を推進していますが、利用しやすい環境整備や理解促進が課題となっています。

数値目標

指標名	R 6	R 11	R 15
自治会や地域活動で男女平等と感じる人の割合	22.7%	30.0%	35.0%
LGBTQ+（性的少数者）の言葉の認知度	53.7%	70.0%	80.0%

²³ 固定的性別役割分担意識：「男性は仕事、女性は家庭」など、性別によって役割があらかじめ決まっていると考える意識。

まちづくりの方向性と具体的な取り組み

【①人権を尊重した男女共同参画の意識醸成】

- 男女共同参画意識を醸成するため、広報等による町民への周知啓発を行います。

主要な取り組み

- ・ 男女共同参画に関する意識啓発、情報発信の充実

【②男女がともに安全で安心して暮らせる地域づくり】

- 防災・健康づくり・地域活動など、生活の多様な場面に男女共同参画の視点を組み込むことで、性別に関わらず参画しやすい社会環境の整備を図ります。

主要な取り組み

- ・ 男女共同参画の視点に立った防災対策の推進
- ・ 妊娠、出産に関する理解促進
- ・ 性別に関わらず、あらゆる人の人権尊重に向けた意識啓発と情報発信の充実

【③男女がともに活躍する地域づくり】

- 誰もが社会で活躍できるよう、あらゆる職場において男女共同参画を推進するとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境整備を進めます。

主要な取り組み

- ・ 男性中心型労働慣行等の見直しと女性登用の促進
- ・ ハラスメント防止対策の推進

【④男女間の暴力のない地域づくり】

- 男女間のあらゆる暴力の根絶に向けて、相談体制の整備と被害者支援の充実に努めるほか、被害者保護に向けた関係機関との連携を強化します。

主要な取り組み

- ・ DV（ドメスティック・バイオレンス）²⁴ 根絶のための啓発と被害者相談、一時的な保護の推進
- ・ 関係機関との情報共有、連携強化

みんなで取り組むこと



- 意見交換や政策提言の機会に参加しましょう。
- 家庭内で男性の家事参加や女性の就労継続などについて、積極的に話し合しましょう。
- 男女共同参画社会実現に関連する情報の発信などを町民主体で取り組みましょう。

²⁴ DV（ドメスティック・バイオレンス）：配偶者や交際相手など、親密な関係にある相手から受ける暴力のこと。